

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第四輯

5

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
廣西師範大學出版社



滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

5

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
廣西師範大學出版社

· 桂林 ·



產業資料二十三 滿洲果園經營

滿鐵興業部農務課 一九二五年八月 1

洮南商工事情

滿鐵洮南公所 一九二九年六月 335

哈事資料 呼海沿綫密山縣經濟事情

滿鐵哈爾濱事務所庶務課 一九二九年六月 409



產業資料二十三

滿洲果園經營

産業資料 其二十三

滿洲の果樹園經營

南滿洲鐵道株式會社
興業部農務課

凡 例

一、本書は題して「満洲の果樹園經營」とせるも主として満洲南部に於ける苹果園經營に就きての記述である。

一、第一章は満洲に於ける果樹園の現況を説き、第二章は既成果樹園に就き經營の實狀を傳ふる事に努め、第三章には該調査の結果竝に熊岳城農事試験場成績、其他の資料を參酌して經營面積五町歩に對する設計例を示したものである。勿論經營者の技能及經營方法等の如何によつて收支に差異を生ずるは論を俟たざる所である。

一、普通に一技術者が果樹園を經營せんとするには其面積は五町歩を限度とするを以て適當と認め本書の設計例も五町歩を標準とした。

一、度量衡は特記せざる限り日本度量衡に據る。

一、附録として満鐵農事試験場熊岳城分場設計苹果園收支豫算表及朝鮮に於ける苹果園の收支計算を掲げ以て參考に資する。

一、本書は大正十二年實地調査の事實に基き編纂せるものに係る。

凡 例

一、本書は當課職員繁田正芳専ら之を擔任調査編纂した。

大正十四年五月

南滿洲鐵道株式會社

興業部農務課

其産
業資
料三

滿洲の果樹園經營

目次

第一章	滿洲に於ける果樹園經營現況	一
第一節	天然要素	一
第二節	果樹の種類及品種	三
第三節	栽培面積及收穫高	五
第二章	既成果樹園の收支經濟	八
第一節	固定資本	八
第一項	土地	八
第二項	建物	一二
第三項	動物	三二
第四項	農具	三七

第五項	果樹	五一
第二節	生產費	六三
第一項	地代及公課	六三
第二項	補植費	六七
第三項	肥料代	六九
第四項	病蟲害驅除豫防費	七七
第五項	農具維持費	七九
第六項	人夫賃	八〇
第七項	雜費	八六
第三節	生計費	八九
第四節	支出一覽表	九一
第五節	果樹園收入	一〇三
第一項	果實收入	一〇三
第二項	副業收入	一〇五

第三項	家畜收入	一〇七
-----	------	-----

第四項	收入一覽	一〇八
-----	------	-----

第六節	收支一覽表	一〇九
-----	-------	-----

第三章	果樹園經營の設計例	一二七
-----	-----------	-----

第一節	經營法	一二七
-----	-----	-----

第一項	土地區劃	一二八
-----	------	-----

第二項	耕種梗概	一二八
-----	------	-----

一、苗木	一二八
------	-----

二、栽植時期	一二九
--------	-----

三、栽植距離	一二〇
--------	-----

四、栽植方法	一二一
--------	-----

五、整枝及剪定	一二二
---------	-----

六、施肥	一二八
------	-----

A 土糞製法	一二三〇
--------	------

B	土糞の成分	一三三
C	土糞の性質	一三六
七	除草及中耕	一四三
八	摘果及袋掛	一四四
第三項	病蟲害驅除豫防	一四五
	蘋果病蟲害驅除豫防年中行事表	一六四
	驅防劑	一六六
	石灰硫黃合劑稀釋表	一七九
第四項	土地利用法	一八二
第五項	防風林及籬作成	一八八
第二節	固定資本	一八八
第一項	土地	一八九
第二項	建物	一九〇
第三項	動物	一九一
第四項	農具及家具	一九二

第五項	苗木	一九五
-----	----	-----

第三節	流動資本	一九六
-----	------	-----

第一項	生產費	一九六
-----	-----	-----

一、公課	一九六
------	-----

二、肥料代	一九九
-------	-----

三、病蟲害驅除豫防費	二〇一
------------	-----

四、人夫賃	二〇二
-------	-----

第二項	生計費	二〇五
-----	-----	-----

第三項	雜費	二〇七
-----	----	-----

第四項	資本利子及固定資本償却費	二〇九
-----	--------------	-----

第五項	支出一覽表	二一〇
-----	-------	-----

第四節	果樹園收入	二二二
-----	-------	-----

第一項	副業收入	二二二
-----	------	-----

第二項	果實收入	二二六
-----	------	-----

目次

六

第三項 收入一覽表……………二二一

第五節 收支一覽表……………二二三

附錄

一、滿鐵農事試驗場熊岳城分場設計蘋果園收支豫算表……………二四三

二、朝鮮に於ける蘋果園收支計算表……………三〇七

目次終

滿洲の果樹園經營

繁 田 正 芳

第一章 滿洲に於ける果樹園經營現況

第二節 天然要素

土地氣候は果樹栽培上最も重要な天然要素である。而して如何に良好なる土質と優秀なる技術とを有するとも氣候不適當であれば、到底果樹の生育不可能なるを以て、如何に氣候が果樹生育に重大なる關係を有するかを識ることが出来るのである。故に本項に於ては滿洲に於ける果樹栽培と氣候の關係に就き概論せんとするのであるが已に此の關係に就ては當課出版の「南滿洲の果樹栽培に關する調査」書中に詳細論述せられたるを以て、茲には南滿洲の氣候が果樹栽培に適する結論のみを摘記する。即ち

一、春期に於ける氣溫の上升迅速にして且つ比較的高溫なること。

二、夏期雲量著しく少きこと。

三、日照時數甚だ大なること。

四、夏期の平均濕度小なること。

五、果樹の發育期に於ける降水量甚だ小なること。

六、晩霜期の早きこと。

等は滿洲氣象の長所にして稍々不利なる點は暴風日數大なること及冬期に於ける最低氣溫の降下稍々大なること等であるが、要するに我南滿洲に於ける奉天以南の諸地方は果樹栽培上米國の果樹栽培地に比すれば稍々劣る所あるべきも日本、朝鮮等の果樹栽培地に比して遙かに良好なる氣候的天然要素を有することを知り得るのである。

而して滿洲の土壤は風成沖積土多く地味概して豐沃にして其種類は主として埴土若くは埴質壤土である。關東州及安奉線方面には多少の礫質埴土或は埴質礫土等が分布して居る。壤土又は砂土は河川沿岸山麓の小部分に存するのみである。然るに品質良好なる苹果は沖積層の砂質壤土に産し特に風味色澤共に可良なる苹果は礫質埴土に産するを以て滿洲の土壤は苹果栽培に好適するものと云ひ得

第二節 果樹の種類及品種

果樹園開設に當つて第一に考慮すべきは栽植すべき樹種の種類である。今日園藝果樹として有望なるものは僅かに十數種にして各其特性を異にし、特に氣候に制限せられ自ら栽植すべき種類も略決定するのである。即ち我滿洲に柑橘類及び枇杷等の栽植不可能なるが如き之れである。而して從來は滿洲に於ても數種の果樹を栽植したが將來經濟的經營をなさんとするには本論たる蘋果を以て第一とし、其他支那梨の紅梨、鴨梨等の栽培も有望たるを失はぬのである。猶之等を主とする關東州内の果樹園にありて、より以上收益の増加を計らんが爲めには、數本の櫻桃並に若干の葡萄を栽植するの亦一法である。

蘋果は其品種實に二千餘種にも上るのであるが、其中滿洲に於て最も有望なる品種は左の數種に過ぎぬのである。

和名	原名	和名	原名
祝不	明	旭	Mc Intosh red.